

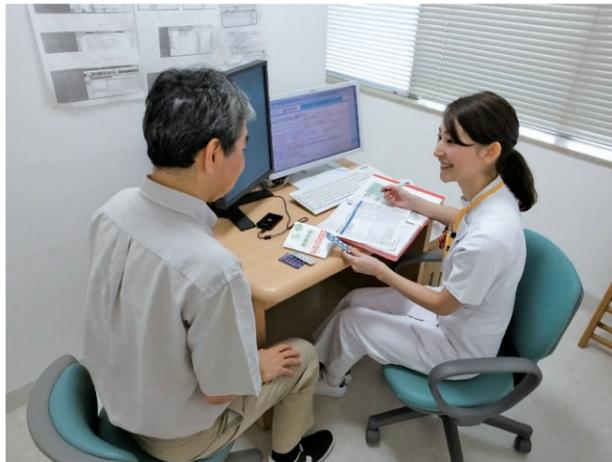
## 周術期管理センターにおける薬剤師業務について

周術期管理センターにおける薬剤師の役割は、手術を受ける患者さんやご家族に対して「服薬状況」等を聴取し、医師への情報提供を行うことです。特に抗血小板薬や抗凝固薬等の血液をさらさらにする薬は出血を助長する可能性があるため、医師は手術への影響を考慮して薬を「一時中止する」もしくは「継続する」かの判断が必要となります。また、サプリメントや健康食品の摂取状況も同様に薬剤師が情報収集を行い、安全に手術を受けることができる体制を構築しています。

周術期管理センターを受診する際は、「お薬手帳」や「お薬説明書」等の持参をお願いいたします。



薬剤部 薬剤師  
いま むら たけし  
**今村 健**



## 周術期管理センターにおける管理栄養士の役割について



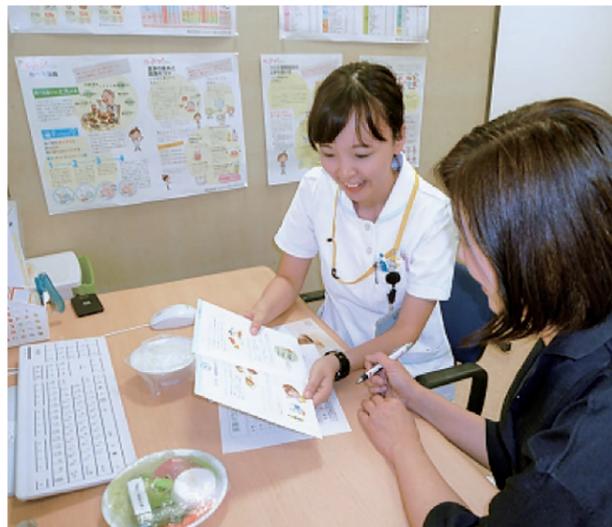
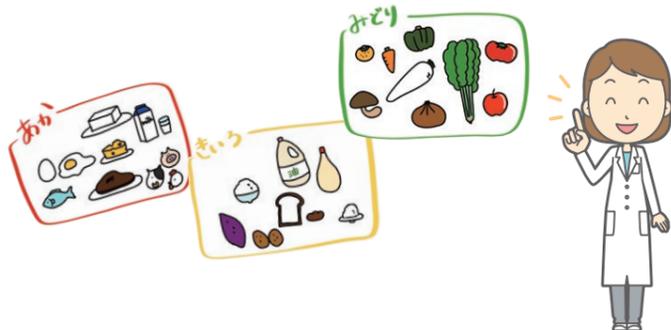
栄養部 管理栄養士  
くら はし みさこ  
**倉橋 操**

栄養部では、周術期管理センター受診の消化器外科で癌の患者さんに対し、入院前に個人栄養食事指導を行っています。

消化器外科の手術を受けられる患者さんは、食欲不振や口から摂取した飲食物の通過障害により、手術前から栄養障害に陥っている場合がみられます。栄養不良があると外科手術後の合併症の発生率が高くなることが知られています。手術直後は絶食となることがあり、食道癌切除や膵頭十二指腸切除は、消化器外科手術の中でも侵襲が大きく、手術後経口摂取（食べ物を口から食べて咀嚼して噛み砕き、飲みこみやすい形状にして飲みこむこと）が不十分な期間も長くなってしまいます。手術前から栄養状態を保つことは、手術後の順調な回復のために大変重要です。

個人栄養食事指導では、患者さん個人に合わせた必要

な栄養摂取量を示し、具体的な食事量を説明し、食べ物・飲み物に関する注意点などのお話をします。また、必要な場合は栄養補助食品の紹介なども行います。食事に対する不安やご質問などありましたら、まずは看護師までお申し出ください。



## 周術期管理センターのご紹介

周術期とは、手術の前(術前)から手術中(術中)、手術後(術後)を通しての期間のことです。周術期管理センターは、安全で質の高い手術医療を提供することを目的とし、手術が決定した時点より多くの専門職が関与しながら準備を進め、安心して手術を受けて頂くためのものです。



周術期管理センター長  
やま うち けん  
**山浦 健**

### 「目的」

手術とは体にメスをいれて治す医療です。医学医療の進歩により多くの手術では傷も小さくなり、すぐに回復するようになってきましたが、それでも手術はいわゆる「計画された外傷」ですので、体にとってはかなりの侵襲で負担になります。傷の痛みだけでなく、出血や感染など、麻酔中であっても体の中では日常生活では経験することがないような様々な反応が起きてきます。これらの侵襲に打ち勝つためには準備と計画が重要になります。

周術期管理センターでは、手術予定患者さんの情報を入院前の外来段階で把握することで手術に向けた準備を開始し、入院後の追加検査を減らし、術後の合併症を予防して、入院前から手術後までの流れを効率化し、入院期間の短縮および早期の社会復帰を図ることを目的としています。

### 「周術期管理センターの構成員」

周術期管理センターは、医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・薬剤師・管理栄養士・事務職員等により構成されます。また、支援部門として、主に呼吸器内科、循環器内科、糖尿病内科などの内科部門や歯科口腔外科と連携して手術前の準備を行います。

### 「周術期管理センターの役割」

周術期管理センターの役割としては大きくわけて、「術前評価」と「術前・術後オリエンテーション」があります。

「術前評価」では、手術や麻酔に耐えられるだけの体力があるかどうかを確認します。看護師により、手術を必要とする疾患以外で、これまで罹った疾患(既往歴)、手術の経験(手術歴)、現在治療中の疾患や内服状況、アレルギー、飲酒や喫煙を含めた生活歴などを確認します。麻酔科医の診察により、心臓病、呼吸器疾患、糖尿病など様々な疾患を抱えてある方は必要に応じて、かかりつけ医や当院の内科医と協働して手術に向けて準備をしていきます。

「術前オリエンテーション」では入院のオリエンテーションの他、手術に向けての禁煙指導、服薬指導、口腔ケア、栄養(運動)指導、医療安全指導について行います。特に医療安全教育は重要で、手術は医療の中では患者間違いや手術部位間違いなどいろいろなリスクがある領域です。このため患者さんにも医療安全の重要性を認識し、参加して頂くことが非常に重要になります。手術室での患者確認、手術部位確認では患者さん自身に述べてもらうのが原則です。手術室で行われることについては看護師よりオリエンテーションがあります。

「術後オリエンテーション」では術後早期から社会復帰へ向けての訓練などが開始されます。手術後の痛みが強いと予想される場合は患者さん自身で痛み止めを追加投与できるシステム(PCA)を用いますので、その使用方法なども説明されます。

このように、周術期管理センターで外来時点から準備を進めることで、手術までの流れをスムーズにして、手術前の入院期間の短縮および合併症の少ない術後経過を実現し、早期の社会復帰を支援していきます。

### 就任のご挨拶と周術期管理センターでの術前麻酔科診療

平成30年4月より麻酔科学准教授に就任致しました。

私は平成8年に九州大学を卒業し、その後大学院を卒業、ドイツのマインツ大学に留学しました。臨床医としては九州大学病院、福岡市立こども病院、麻生飯塚病院、済生会福岡総合病院、九州医療センターで主に手術麻酔や手術部業務に携わりました。福岡大学病院での勤務は今回が初めてで、気持ちも新たに4月よりやって参りました。

麻酔は、単に眠らせるだけでなく、麻酔薬によって特殊な状態を作り出し、手術中や手術後の痛みや出血・感染症から患者さんを守ります。しかし、手術自体の影響もさることながら、麻酔そのものも体に大きな影響を及ぼします。このため、患者さんが手術および麻酔に耐えうる状況かどうかを、私たち麻酔科医が診察します。

これまで手術を受ける場合、入院した後手術前日に担当麻酔科医による診察・麻酔説明が行われていました。そのため、時には急遽追加で検査が必要になったり、内服薬の調整といった術前準備が不十分なため手術が延期になったりすることもありました。周術期管理センターで術前診療が行われることにより、外来受診の時点で、手術を受ける際に必要な追加検査や内服薬調整・禁煙指導などが行えるようになり、患者さんにとって不利益となるような事態は大部分避けることが可能となっています。

手術は、私たち周術期医療に携わる者にとっては日常でも、患者さんとそのご家族にとっては一世代の大イベントです。周術期管理センターにおける術前麻酔科診療では、患者さんが麻酔の安全性、必要性、危険性などについてしっかりと理解した上で、安心して手術・麻酔に臨んで頂けるように、患者さん個々の状況に合わせて診察・麻酔説明をするよう心がけています。



麻酔科 医師  
ひがし  
東 みどり子

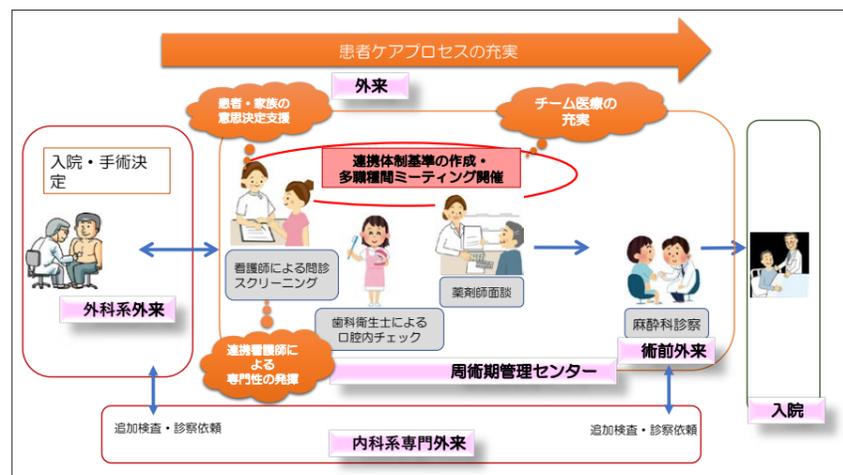
### 周術期管理センターにおける看護師の役割について

内服薬調整不足や併存疾患のコントロール不足などによる予定手術の延期症例の減少、入院期間の短縮、周術期口腔機能管理加算症例数の増加を目指し取り組みを開始しました。現在年間の手術件数は8500件前後で推移し、周術期管理センターの活用率は87%です。多職種でスクリーニングを行うことで、入院後の手術延期件数が減少および在院日数の短縮を達成しました。当センターでは患者情報の共有化の重要性を周知し、外来経過サマリーの充実を図り、記載率は91%、看護師の入院後の情報収集や退院支援の検討にも活用される効果も認めました。外科系医師の意識調査より、総合評価も80%が肯定評価でした。

周術期管理センター看護師の人員配置は、周術期管理センター配属看護師が3名、各病棟からの連携看護師5名、手術部看護師2名で構成されています。周術期管理センターの主任は、多職種・他部門・手術を受ける全診療科と調整を行う必要があります。患者がスムーズに麻酔科医の診察を受けられるよう調整し、多職種が連携を取りやすく、働きやすい環境作りを心がけています。周術期管理センターの看護師はスクリーニングを行なうだけでなく、入院に対する認識、日常生活・身体情報、家族の入院中のサポート状況を確認し、外来で得た情報を病棟に繋げるためのケアプロセスを充実させるため、各病棟の連携看護師が役割を担っています。実際の手術室内の状況や手術当日の1日の流れについてのビデオを作成し、麻酔科医師の診察前に見て頂いています。手術部看護師はビデオの不明点の補足や実際の手術体位、アレルギーの対応など安全に手術が行えるよう手術オリエンテーションを専門性を発揮し行っています。麻酔科医師の診察に同席し患者の意思決定支援を行い、安心して入院・手術が受けられるように外来からサポートしています。



周術期管理センター  
看護師  
まこ  
真子 文恵



### 周術期管理センターにおける歯科口腔外科の役割について

福岡大学病院周術期管理センターは2016年6月に設立されました。「周術期」とは手術日を含めた手術前後の時期を指しています。広く考えるとがんの放射線・化学療法治療期間なども周術期ということもできます。周術期管理センターでは、医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・薬剤師・管理栄養士・事務職員等による他職種が一丸となって、予定手術の中止症例や延期症例の減少、入院期間の短縮、手術中の安全や術後合併症の予防、周術期口腔機能管理の認知向上を目指しています。我々、歯科口腔外科はおもに口腔ケアを中心とした周術期口腔機能管理を行っています。

#### 【周術期等口腔機能管理とは】

周術期等口腔機能管理は、医科と歯科が連携して口腔衛生管理を行うものです。一般的に全身



麻酔の手術後には身体の抵抗力が落ち、肺炎や感染などの合併症が発症し易くなります。健康な状態でも口腔内にはたくさんの細菌が存在しています。抵抗力が落ちているときに口腔内の細菌が肺や血液の中に入ると合併症の危険性が高くなることが明らかになってきました。はじめは、頭頸部領域、呼吸器領域、消化器領域等の悪性腫瘍の手術、心臓血管外科手術、臓器移植手術、化学療法や放射線治療中の患者さんのみが対象でしたが、現在は、人工関節置換術等の整形外科手術、脳卒中や化学・放射線治療予定の患者さんも対象となっています。

全身の健康回復には、術前から十分な口腔ケアを行い、お口の中を整えておくことが重要なのです。



歯科口腔外科 歯科医師  
せと  
瀬戸 美夏

### 周術期管理センターにおける歯科衛生士の役割について

周術期管理センターでは、口腔内診査を行い動揺歯・う蝕・周術期の口腔ケア・感染源になりそうな歯科疾患をみつけ歯科口腔外科へ受診いただきます。その後かかりつけ歯科へ継続治療を依頼し、お口の健康を保っていただきます。

#### 歯科口腔外科の役割

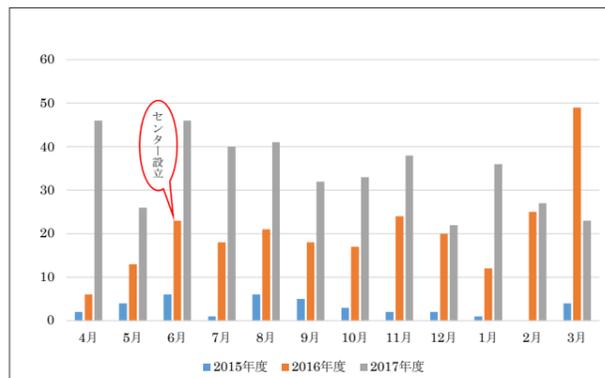
##### 1. 口腔内細菌が原因となる感染症を予防

口腔ケアを行うことで、バイオフィルムが除去され、口腔内の細菌数が減り誤嚥性肺炎や敗血症などの周術期の感染症が予防できる。

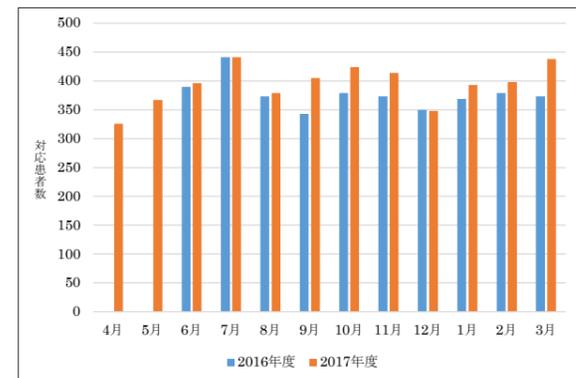
##### 2. 気管挿管時の歯・口腔粘膜の損傷の予防

歯の損傷が予測される場合は、マウスピース(プロテクター)を作製する口腔管理の必要性

- ① 全身麻酔で挿管チューブを用いる場合、口の中の細菌が気管や肺に押し込まれる可能性があるため。
- ② 重度のう蝕(虫歯)や歯周炎を起こす細菌が、身体の中で他の病気を発症させる可能性があるため。
- ③ 歯周病などでグラグラ動いている歯は、全身麻酔時に脱臼や脱落し誤嚥の危険性があるため。



入院前に歯科口腔外科で早期に口腔ケア介入患者推移



周術期管理センター歯科衛生士対応患者推移 (2016年4月試験運用開始)



歯科口腔外科  
歯科衛生士  
くろき  
楠 亜樹